

タイトル:平成 24(2012)年度 研究セミナー

日程:平成 24 年 12 月 14 日(金)～16 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「ヨルダン川西岸地区における現金貨幣過剰 — その理由と問題点」

鈴木 隆洋(同志社大学大学院)

私はヨルダン川西岸地区とガザ地区における銀行制度と、その経済への影響ならびにそのことが持つ政治的意味を研究しています。あまり同種の研究をしている人が居ない上に、博士課程から研究者の育成に関しては蓄積のない環境にうつり、それまでの放っておいても学会や外部資金の情報やアドバイスが入ってくる環境から切り離され、だいぶ不安を感じておりました。

したがって日頃中東地域やイスラームに関連することを研究対象とする皆様に囲まれて過ごすことが出来た3日間は至福の時でした。

さてこの3日間に私が研究上得られたものを振り返ってみますと、日本金融学会の各国金融の分会で発表してはどうかと勧めて頂き大変ありがたかったことや、長い時間を割いて頂き様々な角度からコメントを頂いたこと、発表と質疑応答をする中で改めて自分の研究の弱いところやすべき作業が浮き彫りになったことなどがあげられます。

また日頃交流があるものとは全く別の研究に触れることが出来、単純に面白かった、格好を付けて言えば知的刺激を得ることが出来ました。と同時に自分ももう少し研究に集中できるよう心身と環境を整え、研究に邁進したいものだという思いがむくむくと湧いてきました。

また事前準備の段階で、入学時から軌道修正した自分の研究計画を改めて書き直すこととなり、よい機会となったと思います。

考えてみればたまたま書類を書くだけで自分は疲れたとか時間が取られたとか言っている訳ですが、AA 研の先生方は講義・ゼミ生の指導・大学行政・外部に提出する書類などある中であれだけの時間を割いて我々の発表を聞き、そして専門内であろうとなかろうと適宜よいコメントや質問を提出してくださいました。正直なところ自分はその場で即座に自分なりの問題をみつけ質問をするのが苦手な方です。実際舌を巻きました。これを目の前で何度も見られるのがこのセミナーの一番いいところ(刺激)ではないかなと思います。

繰り返しになりますが、特に現在自分の専門やそれと隣接する分野の研究者との日常的な接点がなく悩んでいる方にこそオススメです。お誘いいただいた某先生と、セミナーに関してお世話になりましたスタッフと教員の方々に御礼申し上げます。